

《聖書》使徒言行録 1:1-11

聖書の時代の宇宙観

聖書を読む場合に一番注意しないといけな
いことは、聖書が伝えたいことがらと、聖書
で伝えるつもりはないが当時の一般的な考え
として入ってきたことがらとを区別すること
です。教会の歴史の過程の中で、こうした区
別ができないばかりに、大きな過ちをおか
してきました。その一つがガリレオ問題です。
当時の教会は、聖書の表現にもとづいて天動
説を主張していたので、コペルニクスが唱え
た地動説を主張するガリレオを受け入れませ
んでした。

これは、聖書が神の書かれたものであり、
一字一句誤りがないとする考えからきていま
す。しかし、聖書はある時代にある人々にむ
かって語りかけられた言葉であり、その表現
は当時の一般的な考えに従っています。聖書
の時代は、大地が動かずに太陽が天上を行っ
たり来たりしていると考えていた時代です。
こうした時代の描写をもってきて、これは神
の教えであるから誤りがないといっても、そ
れは聖書が伝えたい内容ではありません。

昇天

昇天の問題も同じように考えないといけな
いのです。昔の宇宙観によると、天は神の住
まいというのがあたりまえでした。しかし、
現代の私たちは天が神の住まいとは考えてい
ません。そうすると、昇天の物語も別の言葉
で説明されなければなりません。むしろ、昇
天の物語を通して聖書は私たちに何を伝えた
のかを読み取らなくてははいけないのです。
もしこの作業をおろそかにすれば、昇天の物

語はおとぎ話で終わってしまいます。
では、昇天の物語を通して何を私たちに伝
えたかったのでしょうか。復活の物語を通し
て、イエスの死はむだに終わらなかった、む
しろ、イエスの死を通して弟子たちは立ちあ
がり、イエスと同じように生きようとしたこ
とが伝えられています。

これだけでは何か言いたりないことがあ
ったのでしょうか。イエスが神とひとしいもの
であることを伝えたかったのです。天に上げ
られるという言葉は、同時に神の右に座ること
を示していました。このことを強く表現し
ているのは、フィリピ2:6-11に伝えられてい
るようなキリスト賛歌です。ここでは復活に
ついて述べず、高挙を述べます。イエス・キ
リストの栄光が強く示されています。
当時の教会の信仰告白は、いろいろな形で

おこなわれていました。しかし、ルカによる
福音書記者は、すべての出来事を順序正しく
書くことを目的にしていたので、昇天の物語
を復活の物語のあとにつなげることにしまし
た。その後の教会も、この表現にしたがって
信仰を宣言してきました。

ルカによる福音書記者によれば、復活のイ
エスに出会った人は、かぎられた人たちであ
り、イエスが天に上げられることによって、
イエスは万民の主となることができたのです。
つまり、昇天の物語を通して、復活したイエ
スは、ある時代、ある地域をこえて、すべて
の人々に認められることを示しているのです。
復活したイエスが、今も私たち一人一人の中
に働いていて、私たちが知らないうちに勇氣
と力が与えられているのです。
主の昇天の主日第1朗読B年（滝野）